鴻巣北小学校だより 12月号



令和元年12月2日

学校教育目標

強 くー自信をもって心身ともに鍛える子 正しく一深く考え、進んで学ぶ子 美しく一思いやりがあり、感動する子

秋から冬へ 生き物の不思議

校長 吉野 徳子

師走。カレンダーも残すところ1 枚となり、いよいよ学年のまとめを意識する季節となりました。 そのような折、先月、テレビで「秋から冬ごもりをする生き物」の映像を観ました。

「人間も冬は寒いし、動きが固くなるなあ・・・、あれ、蝶はどこへいくんだ?あれ、 かめは????」などと、軽い気持ちで観ていました。

その映像には、天気の良い高原を飛び交うキチョウは山奥へと静かに飛んでいき、 川辺にいたカメは、のそのそと川をあがり、林の中の木葉の下にもぐり、各々春に目覚 めるために冬の準備をしているものでした。その姿から、愛おしさを感じると同時に、 必死に自分が冬を過ごす場所に向かって進み、与えられた自然・環境の中で、自分の 生命を守る・子孫への継承への厳しさや強さをも観ることができました。





本校には、毎年春になるとツバメが体育館にやってきて巣をつくり、家族を増やして 飛び交っています。このツバメたちも、暖かい場所を求めて何千キロも渡り、そして、 本校へ戻ってくるようです。ツバメが巣を作る家は、『居心地のいい家』『繁盛する家』 といって、縁起が良いとされています。また、人間が近くにいることで、天敵からひな を守るようにと巣作りをするそうです。

毎春ツバメをみて「大変な冬をすごして、よくぞ、戻ってきたね。」という気持ちで、 迎えていました。生き物の「生きる力」は素晴らしいです。

「アサギマダラ」という蝶ですが、その不思議も最近研究されてきました。 この小さな蝶は、冬に向けて暖かさを求め、日本列島を横断し、沖縄や台 湾、香港まで2500km以上飛んで渡るそうです。冬の間は暖かい洞窟のよう なところで過ごし、新たに繁殖した世代の蝶が、翌年の春に、その逆のコース を通り日本に戻ってくるのです。

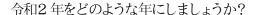
こんな小さなか弱い蝶が1000㎞も飛び続けられるのか?

新しく生まれた蝶が、なぜ帰る場所がわかるのか?

他にも、たくさんの不思議。葉っぱの裏には、何かの卵が、土の中には冬眠しているカエルが・・・。

生き物の不思議はたくさんありますが、いずれの生物も環境 (季節)とかかわって、長い間にその習性が生ま れてきています。この必死に生きていく生き物たちとの共存は、今、世界で大きな課題となっていますが、おご り高ぶる人間にならず、どの生き物とも尊重し合うことができるといいなと、改めて考えさせられました。

人間は、これら生き物たちから何を学ぶのでしょう。多くのことを学ばなければ、自然との共存はできません ね。



今年の児童の行動目標は「**公明正大**」でした。大人の私たちにもとっても大変な内容だった と思います。

12月の全校朝会で、2020年の目標を募集します。是非、御家庭でも一緒に考え、御 応募ください。



